

AI（人工知能）を包含する Embedded Knowledge（埋め込み知）という視点（投稿）

海外担当理事 山崎秀夫

第十三回 新産業革命におけるカウンターカルチャーの重要性

（本学会理事 海外担当 山崎秀夫）

カルチャーと埋め込み知の関係

「サピエンス全史」や「ホモ・デウス」などの著書があるイスラエルの歴史学者ノア・ハラリは、ナレッジマネジメントの視点から見ても様々な示唆に富む言説を述べています。特に埋め込み知と文化の関係での指摘はKMの関係者が舌を巻くほどの鋭さを持っています。

例えばアヘン戦争後中国で起こった「太平天国の乱（義和団の乱）」は映画「北京の55日」で有名です。この太平天国運動は約2百万人の死者を出しましたが成功しませんでした。その理由は当時の産業革命を理解し、推進する文化を持っていなかったからだと言っています。これは埋め込み知の視点から言えば太平天国運動の文化の埋め込み知は産業革命を推進するのではなく、それを抑制する側に回ったということの意味です。一方産業革命後、燎原の火のごとく世界中に広がった共産主義運動は、見事にロシア革命を成功させ、その人工衛星スプートニクで一時、アメリカの覇権を脅かしました。その理由をハラリは「レーニンたちが電力ネットワークなどの重要性を十分理解していた為だ」と述べています。共産主義文化の埋め込み知には産業革命への志向が芽吹いていたと言うわけです。そしてハラリは同様に中東の原理主義 IS 運動には「(埋めこみ知に) デジタル革命志向」などが欠けている為、決して成功しないだろうと述べています。

同じ発想で考えれば日本の明治維新期の「尊王攘夷運動」には「蒸気船や陸蒸気、電信などの産業革命志向」が埋め込まれており、あのナチスの文化にも V2 号ロケットを飛ばした技術革新志向（埋め込み知）が眠っていたと言えましょう。

新しい産業革命（デジタルトランスフォーメーション）とカウンターカルチャー

カウンターカルチャー（対抗文化）とは60年代のアメリカ西海岸から起こり、68年前後の学生運動や反戦運動と共に世界中に波及した、ヒッピー、反戦、新宗教、ドラッグ、コミュニオン、ドロップアウトなどの文化を言います。ファッションや音楽、芸術などに大きな影響を与え、大量生産・大量消費時代の画一的な文化へのアンチテーゼとして世に広まりました。注目すべきはこのカウンターカルチャー（対抗文化）の中から新

しい産業革命の原型であるパソコンやインターネットの源流であるアルファネットが誕生した点でしょう。例えば反戦運動に深くかかわっていたゴードン・フレンチとフレッド・ムーアがメンローパーク立ち上げたホームブリュー・コンピュータ・クラブからはアップルを創設したステイブ・ジョブズとステーブ・ウォズニアクが登場しました。ゼロックス・パロアルト研究所のアラン・ケイはパソコンのコンセプトの発明者ですが、彼は「コンピューターのパワーを大手企業から人民の手に取り戻す」とパソコンの意義を唱えていました。マウスの発明者とされているゴードン・ムーアは、ドラッグの愛用と共にアルファネット(インターネット)の立ち上げに深くかかわっています。

先ほどのハラルの見方を当てはめれば「カウンターカルチャー運動の文化の中にはデジタルトランスフォーメーション志向が埋め込まれていた」とみることができるでしょう。

逆に言えばカウンターカルチャーに眠る埋め込み知こそがデジタルトランスフォーメーションの原点だと言えるわけです。

現代の技術革新の中ではカウンターカルチャー運動を公然と掲げているものに仮想通貨とブロックチェーン技術の普及運動があります。

またグーグルやテスラ、アップルをはじめシリコンバレーの経営者と芸術家が毎年夏の終わりに参加する、ネバダ州のブラックロックで開催されるカウンターカルチャー運動の「バーニングマン祭り」は創造性の原点であり、目指すべき未来社会と言われています。

中国の深圳に来た者は須らく深圳の仲間だと言う格言は「同市のよそ者文化＝カウンターカルチャー文化」を見事に表現しています。インドのバンガロールも同じです。

日本 KM 学会も「知識コミュニティにおける経営」(ロバート・バックマン著)の邦訳を通じて、カウンターカルチャーを背景とした KM 運動を国内に紹介して来た過去があります。ピラミッド組織の中で「(一場面にせよ)人間関係を水平にする方策」として一世を風靡しました。筆者も「ミドルアップダウンを提唱する人々」と当時、随分やりあったものです。

PC 革命は 60 年代ヒッピー文化の所産か (参考)

<https://japan.cnet.com/article/20083617/>

書籍は英語ですが、以下が参考になります。

What the Dormouse Said: How the 60s Counterculture Shaped the Personal
Computer Hardcover - April 25, 2005

https://www.amazon.com/exec/obidos/tg/detail/-/0670033820/qid=1116372719/sr=8-1/ref=pd_csp_1/002-0123259-6581627?v=glance&s=books&n=507846

知識コミュニティにおける経営 単行本 - 2005/3

<https://www.amazon.co.jp/%E7%9F%A5%E8%AD%98%E3%82%B3%E3%83%9F%E3%83%A5%E3%83%8B%E3%83%86%E3%82%A3%E3%81%AB%E3%81%8A%E3%81%91%E3%82%8B%E7%B5%8C%E5%96%B6-%E3%83%AD%E3%83%90%E3%83%BC%E3%83%88%E3%83%BBH-%E3%83%90%E3%83%83%E3%82%AF%E3%83%9E%E3%83%B3/dp/4431711414>

大量生産・大量消費に適した日本的経営とそれから生まれた日本的 KM 理論

さて新産業革命が求めるデジタルトランスフォーメーションを推し進める文化は「個が自律した、さらっとした人間関係のカウンターカルチャー運動」と言う見方があります。

一方筆者が心配なのはハイコンテクスト社会と言われる程、職縁社会的色彩を色濃く持つ日本的経営、それに基礎を置いたとされる日本的 KM 理論は、カウンターの文化の埋め込み知がもたらす技術革新にスピードや方向性の面から勝てるかと言う疑問です。

KM 文化の埋め込み知は、カウンターの文化の埋め込み知にイノベーションのスピードや内容で勝てるでしょうか？恐らくこの結論は 5G 通信が花盛りとなる 2020 年代の初頭には出ると思われます。

本稿の内容に関する問い合わせは下記までお願いいたします。

hideoyamazaki3@gmail.com

以上